



JICA 筑波 絆で結ぶ国際協力 — 世界と TSUKUBA —



研修員試作の除草機でタンザニアの稲作農家を救え！

～「コメ振興支援計画プロジェクト」で普及中～

タンザニアの稲作と日本の協力の歴史

日本は 1970 年代からタンザニアで灌漑を中心とした稲作技術の協力を行っています。90 年代には、キリマンジャロ農業技術者訓練センター（Kilimanjaro Agricultural Training Center: KATC）を拠点として、人材育成や研修の実施による米生産性の向上を支援しました。これらの成果を受け 2000 年代以降は「灌漑農業技術普及支援体制強化計画プロジェクト（通称「タンライス」）」（2007～2012）や「コメ振興支援計画プロジェクト」（通称「タンライス2」）（2012～2018）を実施し、灌漑稲作技術の全国普及と、灌漑施設にアクセスできない小規模農民支援・貧困削減の観点から、天水畑地稲作、天水低湿地稲作の振興を支援しています。

タンザニアの研修員ショーさんが「小農家向け農機具の試作品の開発・普及」コースで回転式除草機を試作

稲作は田んぼに繁茂する「雑草との戦い」です。除草は重労働で、貴重な肥料を雑草に吸い取られれば米の収量・収入が低下します。そのため効率的な除草法は農家の重要な関心事です。KATC の農業指導員 Mr. SHOO Ludovic Simon（ショーさん）は 2013 年度の「農機具コース」に参加し、従来現地で使われていた押し出し式除草機に替わる回転式除草機を試作しました。この回転式除草機は現地で調達できる材料のみで製作が可能です。また、押し出し式に比べ作業時間が 4 割以上減少、製造コストは半分以下となり、重量も既存機比で 8.2kg から 5.4kg に減少し、女性にも使いやすいものになりました。



従来の押し出し式除草機は操作しづらい形のものでした。



ショーさんが本邦研修で試作した回転式除草機と性能試験風景

「タンライス2」プロジェクトと連携して回転式除草機の普及へ



除草機の使用状況を調査するショーさん
写真提供: アイ・シー・ネット(株) 古市信吾氏

帰国後ショーさんは「タンライス2」の活動に参加し、本邦研修で試作した回転式除草機の普及に取り組みます。地元業者に依頼し回転式除草機 100 台を製造、灌漑地区と天水低湿地稲作地域の農家に配布しました。2018 年 5 月には、「タンライス2」に短期派遣された古市信吾専門家と連携し、配布先の農家に聞き取り調査を行いました。調査によれば、回転式除草機は広く農家に利用され、重大な不具合もなく総じて良好な状態で使用されているとのことで、農家の負担軽減と生産性向上に対する貢献がうかがえます。

研修成果の持続的な広がりに向けて

本邦研修の成果を自国に持ち帰って普及するには、費用の問題などクリアすべき諸課題があります。「タンライス2」終了後もショーさん達がゆっくりとではあっても、研修成果を途絶えることなく広めてくれることを期待しています。

【研修コース情報】

研修コース名	課題別研修「小農家向け農機具の試作品の開発・普及」（現在のコース名は「小規模農家向け農機具の利用促進」）
問い合わせ先	JICA 筑波 代表メールアドレス: : tbicttp@jica.go.jp